

令和元年度島根県がん教育研修会

モデル校による実践発表

松江農林高等学校



福祉サービス系列の授業
(外部講師を活用した授業)

保健体育科(科目保健)の授業

『保健体育科：科目(保健)』と『総合学科福祉サービス系列：科目「介護福祉基礎」』を中心に、「がんについて正しい理解と共に支え合う社会について考える」というテーマでがん教育を実践。



モデル校による実践発表について 受講者の感想

- 今後のがん教育を行っていく上で参考になった。
- 外部講師の活用が有効だと感じた。
- 「未来の自分へのメッセージ」「大切な人へがん検診をすすめるメッセージ」ただ知識を得るだけでなく、今後の自分の生活や生き方につながるような内容で、ぜひ自校でも実践していきたい。
- がん経験者の方を外部講師に招く点が参考になった。
- 授業の中でがん検診について深めていきたいと感じた。
- 学校経営方針に基づくプロジェクトは大きな成果があると思った。

日時：令和元年12月3日(火) 13:50~16:50

場所：島根県立青少年の家(サン・レイク)

対象者：松江・出雲・隠岐地区所在の県立学校、松江・出雲・隠岐教育事務所管内の中学校、義務教育学校後期課程、松江市立女子高等学校の保健体育科担当者及び希望者
松江・出雲・隠岐教育事務所管内の小学校健康教育担当者等の希望者
教育事務所、教育委員会担当者

受講者：121名

出雲市立河南中学校



保健体育科(保健分野)の授業

PTA教育講演会の様子
(外部講師を活用)

河南中学校の学校経営方針に基づき、『命の大切さ』を学ぶ3大プロジェクトの一つとして位置づけて、PTA教育講演会と保健体育科(保健分野)の授業を中心にがん教育を実践。

講演会「今、学校で始まる『がん教育』」

講師：東京女子医科大学 がんセンター長
化学療法・緩和ケア科 教授 林和彦氏

林和彦先生は、東京女子医科大学がんセンター長として診察にあたる一方で、がん教育推進のために、教員免許を取得され、全国各地の学校で子どもたちへの授業や教職員向けの講演会を実施し、活躍されています。

講演の中で林先生から、がんについての正しい理解を深めていただくとともに、なぜがん教育を行う必要があるのか、わかりやすく話していただきました。また、がん教育を始めるに当たっての学校現場での取組に役立つ情報をご示唆いただきました。



講演会について受講者の感想

- 「知識」を伝えることも大事だが、がんについての「意識」を持たせることを大事にしていきたいと思った。(「意識」の教育が必要との感想が多数あり)
- 健康をしっかり考えさせること、がんを知ることはとても大切なことであり、知ることから学ばせていかないといけないと感じ、がん教育をやっていききたいと思った。
- がん教育の必要性について考えることができた。
- 健康教育は生きる力の根本で基礎であることを改めて認識できた。がん教育を通してがんだけでなく命や健康の大切さを伝える教育ができると思うことができた。
- 自分の授業の在り方を考えさせられた。教科書の1つの時間ではなく、どう伝えていくかを考えていかないといけないと思った。
- 実態に合った伝え方が仕事である教員と、より専門的な知識を持っている外部講師が連携して子供の未来をよい方向へ導きたい。がん教育を通して自分自身の大切さや他人を思う気持ちを学べば、いじめ問題などの諸課題への対応にもつながると感じた。
- 生徒達に「がん」についてもっと身近なものとして考えさせないといけないと感じた。
- やることの多い学校現場で、職員にも「大切な教育」と思ってもらえるよう、校内で今回の研修伝達をしたい。教職員の意識を高めることから始めたい。
- 配慮する児童生徒への対応はどうしたらいいか。(課題)